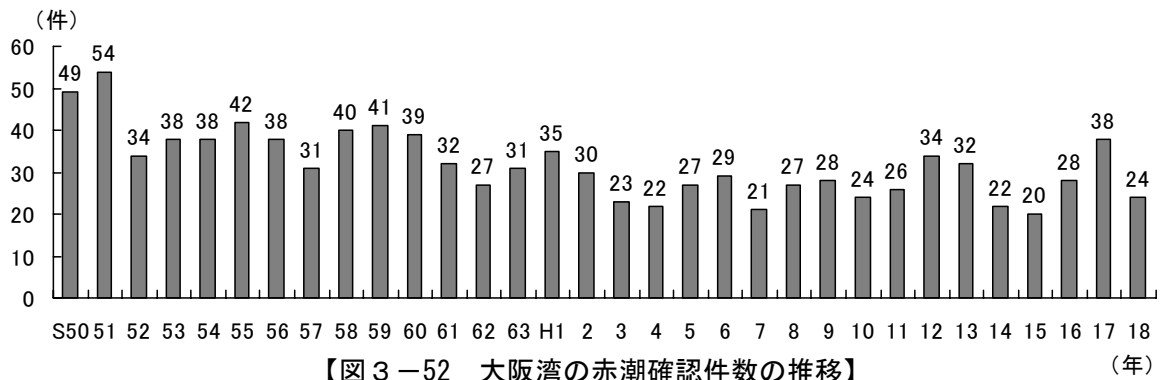


【図3-51 大阪湾の透明度（年平均値）の推移】

注) 数値は湾内15地点の平均  
大阪府環境白書より作成 詳細は資料3-6を参照



【図3-52 大阪湾の赤潮確認件数の推移】

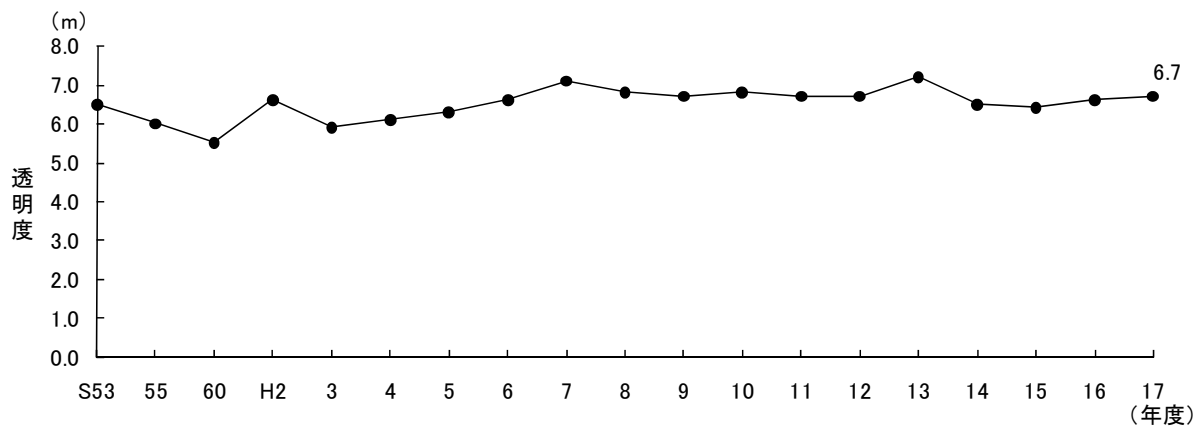
水産庁瀬戸内海漁業調整事務所「瀬戸内海の赤潮」より作成

## (2) 瀬戸内海

大阪湾沿岸部には特に汚濁源が多い。

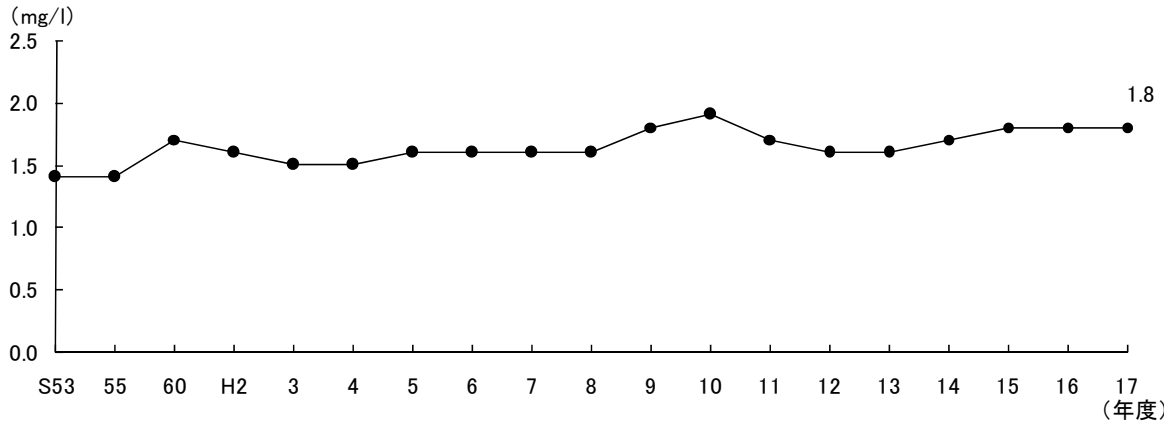
平成17年度の瀬戸内海の平均の透明度が6.7m、平成17年度のCODが1.8mg/lに対し、大阪湾北部はそれぞれ3.7m、2.6mg/l、大阪湾南部は7.4m、2.1mg/lとなっている。

また、広範囲にわたって赤潮が多発しているものの、昭和51年度の299件をピークに減少し、その後、漸減傾向にある。平成18年には108件の赤潮が確認された。



【図3-53 瀬戸内海の透明度の推移】

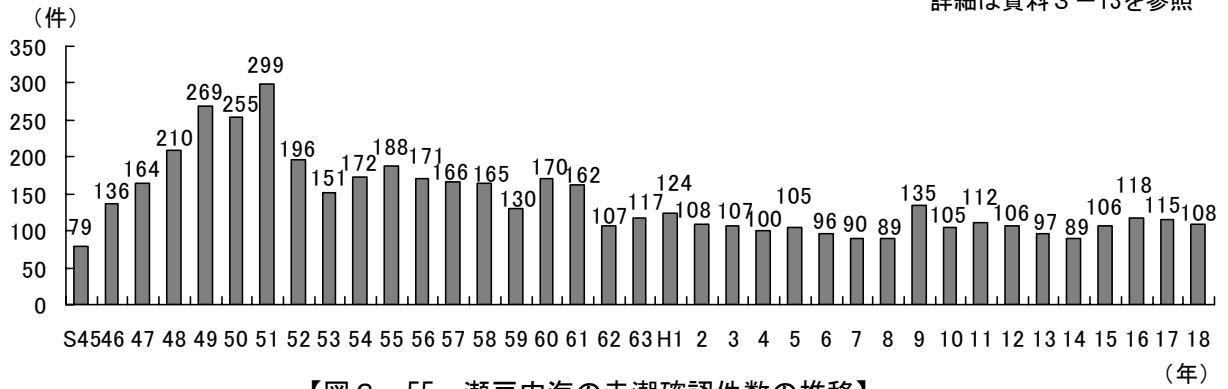
せとうちネット「自然環境に関する情報」より作成  
詳細は資料3-12を参照



注) 数値は測定点ごとの年平均値を灘ごとに平均したもの

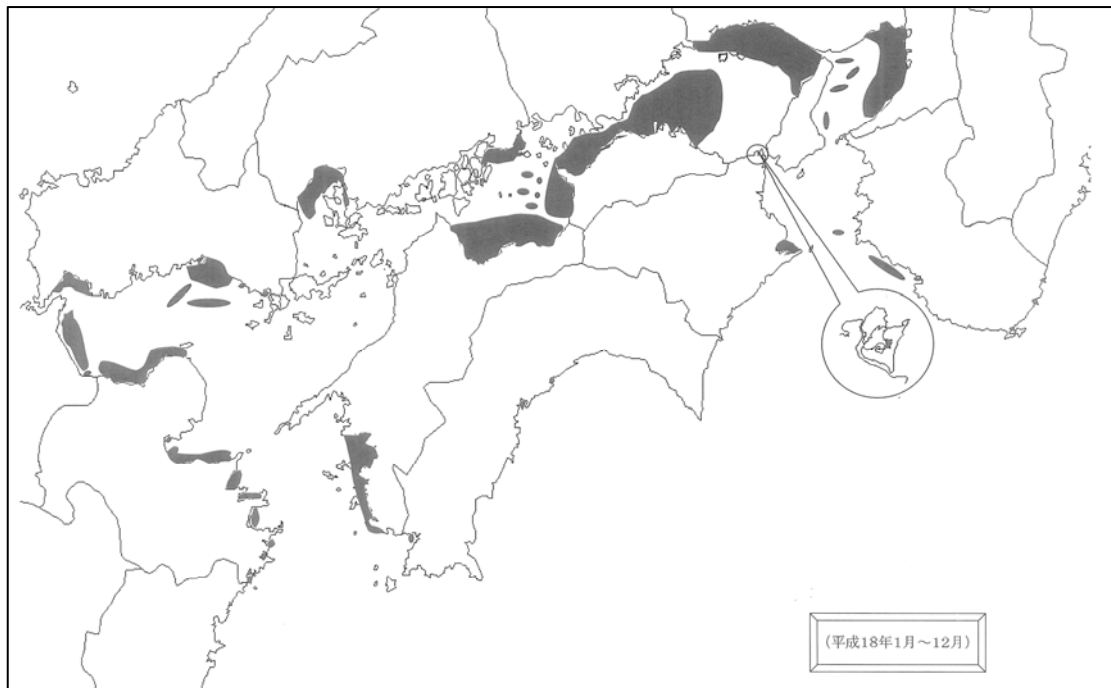
【図3-54 瀬戸内海のCODの推移】

せとうちネット「自然環境に関する情報」より作成  
詳細は資料3-13を参照



【図3-55 瀬戸内海の赤潮確認件数の推移】

水産庁瀬戸内海漁業調整事務所「瀬戸内海の赤潮」より作成



【図3-56 赤潮発生海域 (平成18年)】

出典：水産庁瀬戸内海漁業調整事務所「平成18年瀬戸内海の赤潮」